

脇野 幸太郎

大正大学 人間学部 非常勤講師

夜間・深夜時間帯における訪問介護サービスの現状と課題

－真の「利用者本位」制度構築に向けて

介護保険法は、要介護者が、可能な限りその居宅において自立した日常生活を営むことができるよう配慮すべきことを理念の一つとして掲げている。そこで求められているのは、要介護者が居宅で24時間安心して生活しうるための仕組みや体制づくりである。

そのなかでも昨今の課題としてとりわけ重要なのが、居宅要介護者の夜間の安心・安全をどのように確保するか、という問題である。このことの重要性に鑑み、2005年の介護保険法改正により、「夜間対応型訪問介護事業」が創設、実施されている。しかし、そのサービス提供体制は必ずしも十分とは言えず、この点に関する検討も十分にはなされていないのが現状である。

本研究は、このことに鑑み、現行制度における夜間・深夜時間帯の訪問介護サービスの現状と課題につき検討を試みるものである。まず、同事業の実施状況につき、全国の指定事業所や自治体の担当者にアンケート調査やヒアリングを行い、そこからうかがわれる問題の析出を行った。そしてそれに関し、実態上および法的な観点からの検討を行い、最後にそれを踏まえた政策課題の指摘を行う。